

## E-6 居住地階層と居住環境意識

名古屋女家政	○勘田加津代
静岡大教育	吉原 崇恵
奈良女家政	足達富士夫
	扇田 信

1. ①居住地の産業的特徴と居住者構成との対応を調べ、それらと居住環境意識との関連性を明確にする。

②職業形態による居住環境意識形成過程への影響を分析する。

2. ①都市全体の産業構造の中で占める地位により地区の性格を分析する

②輻輳する居住環境構成要因を a) 物理的自然環境条件 b) 日常生活利便性 c) 職業利便性 d) その他 に分類する

③アンケートにより a) 現住地居住環境評価 b) 永住意志 c) 居住地選択傾向 d) 現住地発展傾向指向などを調査し、地区の性格別、職業形態別に分析する

④調査対象は a) 都市円周部混合地区(390 戸) b) 都市周辺部住宅地区(259 戸) c) 都市近郊農村地区(450 戸) d) 歴史的街区(792 人)

⑤調査期間は 1967 年 10 月から 1969 年 4 月

3. ①各地区ともその産業的特徴により住民の職業形態が限定されておりそのことが住民の居住環境意識規定要因になっている

②都市における居住環境上の問題は、職業上の条件に制約されており、居住環境問題を居住の快適性という面

のみから追究していくことには限界がある。居住環境問題は都市の産業構造全般とかがわっており、これと並行的に進めていかねばならぬ問題である。